

目 次

目次・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
令和3年度 みんなの人権・小地域懇談会を終えて・・・・・・・・	2
みんなの人権・小地域懇談会開催実績・・・・・・・・	3
1. みんなの人権・小地域懇談会「使用したテキスト」(4～) 「優生思想・選民思想を考える」 懇談会の流れ・・・・・・・・	5
話し合いのルール・・・・・・・・	6
今回のプログラム・テーマについて・・・・・・・・	6
説明資料本編・・・・・・・・	7
2. 話し合いの中で出た意見 ・・・・・・・・	20
3. アンケートに書かれた意見・・・・・・・・	25
4. みんなの人権・小地域懇談会まとめ・・・・・・・・	32
5. 平成30～令和3年度参加者の推移・・・・・・・・	36
6. 小地域懇談会実施状況(平成16年度以降)・・・・・・・・	37
7. 令和3年度小地域懇談会推進者班編成表・・・・・・・・	38
8. 小地域懇談会近年のテーマの経過・・・・・・・・	39

令和3年度 みんなの人権・小地域懇談会を終えて

令和3年度も、続くコロナ禍の動向を見ながらの人権啓発活動になりました。コロナ禍以前に行ってきた定例的な催しも、一部はやむなく中止とさせていただきます。

しかしながら、人権・小地域懇談会については実施することとし、各自治会に呼びかけましたところ33自治会中、24の自治会で開催され、コロナ禍への配慮で中止された自治会も、資料の全戸配布や回覧により内容の自治会員への周知に努めていただきました。本町の皆さまの人権尊重の強い意志や学びの姿勢に、深く敬意を表し御礼を申し上げます。

今年のテーマ「優生思想・選民思想を考える」は、難解な印象を持たれるタイトルだったかもしれません。しかし、参加者の皆さまの感想を読みますと、身近な人権課題にも含まれるものだとご理解いただけたように感じます。

この思想は、人間が人間を何かの尺度で優劣を付けたり、民族や人種、肌の色その他の様々な属性によって集団や個人を区別し差別するものです。人間の心や人間社会に絶えず潜み、何かのきっかけで表面化して流行し、先入観、偏見、差別心を煽って他者の心や身体・生命を傷つける動機付けになることがあります。過去の多くの紛争、戦争の大義として掲げられもしてきました。本年2月に始まったウクライナへのロシアの軍事侵攻の背景にも存在しています。

今回、懇談会でふれていただいた幾つかの歴史、出来事から、この思想が持つ人権を傷つける傾向に気づき、関心を持っていただけたら幸いです。コロナ禍に続いて起こった戦争で、世界は一層混乱を深めています。第三次世界大戦までもが現実の視野に見え隠れしています。この混迷が「優生思想・選民思想」の燃料となり、世界を焼き尽くすことのないよう注視して一刻も早い平和の訪れを願い、中国山地の町から微力であれ取り組みたいと思います。

ご多用の中、出席いただきました皆さま、開催にあたりお世話になった自治会役員の皆さま方に、重ねてお礼を申し上げて巻頭のご挨拶にさせていただきます。

令和4年10月17日

日南町同和教育推進協議会会長

日南町長 中村 英明

令和3年度

日南町 みんなの人権・小地域懇談会

「優生思想・選民思想を考える」

～ 選別される生命、その「区別」と「差別」～

期間：令和3年10月～令和4年3月

1. 開会行事

○開会宣言 ○開会挨拶 ○推進者紹介 ○日程説明

2. 導 入

○趣旨説明

3. 資料により解説

4. 質疑・感想・意見交換

5. 感想発表

○推進町職員

○人権センター 人権教育サポーター

6. アンケート

7. 閉会行事

○閉会挨拶

日南町同和教育推進協議会

日野上・山上・大宮 同和教育推進協議会
石見・福栄

阿毘縁むらづくり協議会・多里まちづくり推進協議会

日南町内各自治会・日南町

みんなの人権・小地域懇談会の流れ

1. 開会行事（５分）・・・・・・＜　　：　　～　　：　　＞
①開会宣言（自治会役員・センター事務長・推進班長等）
②挨拶（自治会長・地域同和教育推進協議会会長等）
③推進者紹介（町職員、人権教育サポーター）・日程説明

2. 導入（５分）・・・・・・＜　　：　　～　　：　　＞
趣旨説明（人権センター）

3. 「優生思想・選民思想を考える」資料による解説（４０分）
＜　　：　　～　　：　　＞

（グループ編成→今年度はいたしません）

4. 質疑・意見交換・感想（２０分）・・＜　　：　　～　　：　　＞

5. まとめ（１０分）・・・・・・＜　　：　　～　　：　　＞
○推進班長
○人権センター（人権教育サポーター）

6. アンケート記入（５分）・・・・・・＜　　：　　～　　：　　＞

7. 閉会行事（５分）・・・・・・＜　　：　　～　　：　　＞
○閉会挨拶（自治会長・地域同和教育推進協議会会長等）

話し合いのルール(3つの約束)

参加

積極的に参加しましょう。

自発的に話し合いに参加しましょう。特に、しっかり聴く姿勢を心がけましょう。もちろん、内容によっては「話さない」「パス」という選択もあります。

尊重

一人ひとりの考えを尊重しましょう。

どのような意見や発言も批判や否定をしないで傾聴しましょう。参加者一人ひとりの考えや思いが尊重されると、安心して話し合うことができます。

守秘

参加者の発言内容など個人的な情報は守りましょう。

お互いの信頼がなければ話はできません。参加者個人の情報は、その場において帰り、他人に話したりしないようにしましょう。

<今回のプログラムについて>

☆話し合いのテーマ「優生思想・選民思想を考える」

～ 選別される生命、その「区別」と「差別」 ～

今回のプログラムは、「優生思想・選民思想を考える」です。

「優生思想」は、人間を何かの根拠のない尺度で選別して「優生」「劣性」に区分し、「劣性」とした人たちを社会から排除して「優良な」社会をつくるべきといった考え方です。「選民思想」も似ています。代表的なものは、国家、民族や人種、宗教といった集団的な属性に優劣をつけて、自分たちの属性が神様や誰かに選ばれたモノで最も優れている、と思い込んで他を蔑視してしまうことです。当然、極端な人権侵害の根拠になる思想で、近代では第二次世界大戦の際のナチスドイツが引き起こした大量虐殺が有名です。ずっと世界中に存在していて今も内戦の理由が民族浄化であったり、宗教（及び宗派）の対立であったりします。米国では再び白人至上主義の台頭が懸念されていますし、日本での朝鮮半島にルーツを持つ人たちへの罵詈雑言演説（ヘイトスピーチ）も同種でしょう。なぜか誰もの心に潜むこの思想について考え、意見を交換させていただきたいと思います。

★資料本編は別ファイル

2. 「みんなの人権・小地域懇談会」話し合いの中で出た意見

※感染症予防のため、意見交換の時間を短くしました。ご出席の皆様には大変申し訳ありませんでした。

■懇談会のテーマ設定、運営方法等について

1. 過去のナチス等を知る意味も分かるが、現在のことを話し合うべきである。
2. 難しかった。
3. 話し合いのテーマを見たとき、難しいと思った。
4. 「優生思想」という言葉は耳にすることがあるが、「やさしい」という字として使うことの方が多く「すぐれる」と言われてピンとこなかった。

■小地域懇談会の評価

1. 今まで何度となく小地域懇談会をしてきた。毎回思うが今後もきつとこのような考え方は消えていかないと思う。その都度、意見を交わしあいたい。
2. 人権学習はみんなが幸せになるための学習。
3. 寝た子を起こすな、という考えもあるが、年一回のこうして考える機会は大切。

■説明を聴いて気づきがあったという意見

1. 初めて聞く言葉が多かった。起こった事実は分かったが、そこでの戦い、深堀りをもっと聞きたい。
2. 出生前診断のことで、自分の子どもが孫を妊娠した際を考えると他人事ではない、と感じた。
3. 優生思想はいろんなところで見聞きしてきた気がする。
4. 優生、劣性、平等と違う角度で良かった。
5. 知識は必要。
6. 子どもが健康で生まれるとほっとするのは…。
7. 暗くなると自分中心のモノサシになる。
8. 結婚にあたっては、「釣り合い」とかモノサシが出やすい。
9. 自分が行き詰った時、誰かのせい、原因にしたいくなる。その考えが差別につながっているのでは。誰かにできることは何かを考えていきたい。
10. ユダヤ人の虐殺はヒトラーだけでなく、ドイツ国民全員の責任として反省につながっている。日本は戦争を自分のこととして反省していない。
11. 結婚問題について、国際結婚の場合、日本人と外国人とでは「格下」というようなことを聞いたことがある。「三国人」とか。自分より上・下という意識があると思う。日本人は人と同じようなことをする傾向がある。コロナ禍において、その傾向がよく現れている。

ように思う。人と違うという意識から「選民思想」が生まれてくるのでは。

12. 気持ちの中にあることが、ふとした場面でコロっと出てくる場合がある。気をつけないといけない。

13. 過去の時代で起こったこと、という認識だったが、現代においても優生思想等の考え方に起因するものがあると、あらためて感じた。

14. 学校教育の場(理科)で「優生物質」などという呼び方があったがどう変わった？
→教科書も変わってきている。確認してみる。

15. 自分の中にも危ない思想あり。排除したとしても自分としても良くない。考えることでバランスをとっている部分もある。それを口に出してはいけない、ということを、こうした研修でブレーキをかけられるようになる。

16. 子どもが小学校、中学校、高校では米子東高が一番、米子西高が二番という感覚がある。就職すると学歴を見る。社会として優生思想がある。上の人が変わらないと社会全体として変わらないのでは？

17. 全てにおいて順位付けするのは人の特徴ではないか。誰でも持っている。

18. ナチスの写真が印象的。繰り返してはならない。こういう研修は大事。インターネットの危険性を思う。子どもへの影響が心配。

19. 一人ひとりのモノサシがある。時代時代で勉強の教え方が変化している。考え方も変化してきている。世の中便利になり一人でいろいろできるが、逆に一人よがりになりやすい。

20. 一人ひとりの価値観を考える機会になったのではと思う。

21. いろんなことを考えさせられました。

22. 「宗教」で戦争が起こっている。線引き(優生)もある。大きな事件も起きた。宗教嫌っていた。混在した中にいる。

23. 多様性から子どもたちを見たとき、子どもたちを大人がどう育てるのか。例えば大谷翔平と同じようにしても子どもが同じようになるわけではない。

24. 多様性の意味、人間の育ち方がノーベル賞を生んだと思う。

25. 風向き、「CMでこの人がやっているから良いものだ」と思うのは日常にある。

26. 最近の話題が盛り込まれていて分かりやすかった。

27. 誰の心にもあるものだと思うが、他者のフィルターを通してみるのが少なくなってきた。客観性を取り入れにくい。IT化が進んでいくなか、どういったアウトプットをしていくか考えていかないといけない。

28. 安楽死を認める国もある。ダウン症の子の中絶など自分のモノサシの点検をしてもらいたい。価値観の話。

29. 五体満足で、と願ってしまう、根本的には生まれてきてくれたらそれでいい。新聞は記者の意見に偏る。SNSのいろんな考え方を取り入れて自分で判断していく。意見を持つていくことが必要。

30. 差別が生まれる背景は分かった。大学の看護学科の教授で顔にアザのある方。最近亡くなったが日南町にも来てもらったことがある。小さい頃、アザが原因でいじめにあった。頑張って大学教授になった。人前で笑顔を絶やさないのはいじめられないための防御だったのではないか。
31. 映画の悪役の衣装で電車の中で人を刺した事件があった。次は新幹線で放火があった。神戸のサカキバラセイト事件、宅間守事件、ヤマユリ園事件、と心の隙間に悪魔が入ってくる。報道の在り方にも問題があるのでは？
32. 上級国民・下級国民、勝ち組・負け組という言い方がある。
33. 芸能人のコロナ優先入院とかある。ワクチン接種の有無による線引きもある。
34. 社会生活の中で役に立たないかどうかで分けられているようだ。
35. 障がい者は生まれながら格差があると感じた。
36. 出生前の検査で障がい分かれば中絶することができるのだから選別する思想、意識は変わらないのでは、と感じた。
37. 小児マヒで足が不自由。装具を付けている。付けている人は抹殺です、になると含まれる。結婚するときためらわなかったの？と質問されたことがある。その質問の中にも選民思想がある。子どもが学校から泣いて帰ったことがある。父のことでからかわれたらしい。「なんで普通のお父さんと結婚してくれなかった？」と言って泣いた。妻として普通じゃないという考えはなかった。
38. ネット社会ならではの難しさがある。若い世代で薄れたとしても親世代でぶり返されたり、結局ネット上で拡散されてしまう。
39. 優生思想は特別と思われがちだが、身近な問題。結婚話の時、相手方はどんな家？となる。
40. 誰も言わなければ制御できているのに、一人が言い出すと、「私も思っていた」という形で出てくることもある。
41. 日々の自分の中にもある。
42. 幼少期からの病気があり、思うようにできず自分はダメと思ってきた。いろんな関わり方があると今なら分かるが、当時はダメとしか思えなかった。周囲の空気感、個々を認めていく雰囲気を受け止められるようになった。
43. 報道は難しいことばかり言うが、身近なところにある。子どもなり孫なり結婚相手の家庭環境が気になる。心配しているだけでなく優生思想の点で気にしているところがあるかも、と気づく。
44. 出生前、着床前診断において、命の選別に人間が関わってよいものか。それは神のみぞ知ることでは。本来は神の領域であって、我々人間が関わってはならない所なのではないか。
45. これからは、更に外部から手を加えられることによって選別選択を迫られる場面が出てくるように思う。本当にそれが今後の人類の存続にとって望ましいことなのか、考

えてしまう。

46. 身の周りで実際に障がいのある人を育て生活をしている人を見て、苦勞されている様子も伺う。そういう苦勞が、どうしても必要なのか？と考えていくと選択肢があっても良いのではないかと思うこともある。

47. 優生思想、選民思想の説明分かりやすかった。優れた人に憧れるのも優生思想。人によってモノサシが違う。法律で決めるのも問題。

48. 海外の方とのコミュニケーション。多様性を人間はどこかで求めている。

49. 社会の中では優劣は考えず実践してきた。人との付き合いが多ければ、苦痛でも幅広く聞ける。素直に聞き取れた。

50. 人の目を見る癖がある。人前で上から見る形はしない。

51. 誠に良かった。

52. 自分は今日健常者だが、今後、年を取ることで社会の荷物になりかねない。「支え愛」により皆で助け合い、支え合う社会が大切。このような社会の形成のために率先して取り組みたい。

53. 「多様性」という言葉から、金子みすずさんの有名な詩が思い浮かんだ。「みんな違ってみんないい」この言葉が、多様性を考えるうえで、一言で表れている。

54. 優生思想は誰にでもあるもの。自身の心をコントロールするためにも毎年度、研修を行っていく必要があると考えています。

■他の人権課題に関する意見

1. 来年度から中学生の制服が変わる。保護者への説明はあまりなかったが、日南町の対応は早かった。

2. 皇室に対する批判がこれほどまでにあった過去はなく、まともな世界ではなくなった。特に、匿名で徹底的に攻撃する。

3. 主たる原因はネット社会ではないか。コロナ禍のマスクで顔の3分の1が隠れていて気軽にモノが言えるようになった。

4. トランプ大統領、世界で一番影響力のある人物がネットを使っている。

5. お互いを信じあう、また互いに気づくことが大切である。

6. 人の話を聞きながら自分の人権感覚を振り返るべき。

7. マスコミの発信の仕方にも問題がある。コロナ感染症の流行をどのように捉えるのか、本質が見えていない。

8. 日本人は人権意識が高いと言われているが、そうではない。ジェンダーという点から見ても、役に着くのは男性が多い、など。外国人技能実習生には仕事や医療の保障がされていない。働きたい外国人に選ばれない国にあるだろう。少しずつでも動くことで人権問題が見えてくる。

9. 自分が育った時代と今の時代では、ネットとかで変わってきたと感じている。物の言

い方で傷つける場合もあるので、言い方には気を付けないといけないと思う。

10. コロナワクチン未接種に対する差別はあったか？→(回答)町内では聞いていない。

11. コロナで海外からの技能実習生の扱いはどうだったのか。未だに残る人種差別。

12. コロナ禍で社会的弱者が増大、自殺者も増えた。老年層も。

13. 自治会長、議員に女性がいない。女性が劣っているわけでは決していない。女性の力は必要。

14. 会社の福利厚生事業の一環でレクリエーション行事がある。仕事の一部にとらえられ会社での評価に反映される。出たくなくても出る社員もいる。「自分の言うことを聞かないとボーナスは出ないよ」と行事のリーダーが言う。そんな思想がいろいろなところにあるんだと思った。

15. 病院でコロナ対策に関わるスタッフの中でも、お互いに担当者名をふせて対応した。差別や人権侵害が職場内でも起こらないための配慮だと思う。

16. 仕事で精神障がい者の方の血液検査をしたことがあるが、数人で押さえつけなければならなかった。本当に必要だったのかと今では思う。

17. ハンセン病回復者の施設に日野郡出身者の慰問をした。施設ができた時は、ハンセン病は怖い病気、触れないように連れてきた。今のコロナのように。何年か経ち隔離の必要がないと分かってきたが、国としては施設を続ける方針とのこと。入所している人には本当のことを言えない、と医師が言っていたのが印象的だった。この頃に比べれば社会も変わってきたと思う。

18. 良いこと悪いことの概念で育ってきたが、今はそうではなく、面白いか、面白くないかで判断している。価値観が社会の流れの中で変わってきている。精神疾患の方の社会的入院。退院できる病状なら退院させる流れだが、退院すると、浦島太郎状態になる。対応するためにグループホームを作ろうとすると「うちの近くに作られても」と予防線を引かれる。見えない辛さがある。

19. 今まで学んできたこと(悲しいこととか)で判断するしかない。

20. 子どもが知的障がいでも途方に暮れたことがある。生まれて分かる。多動で発達遅れる。インターハイ陸上のリレーでオーバーゾーンしてしまった。車の免許は3回で取った。隠さず話したい気持ちもある。

21. 障がいのある人や家族が集まれる場所や、頑張っていると分かり合える場が必要。

22. 身障者手帳を使う意味。外してくれないかと言ったこともある。無理と言われた。介助は必要ないのだが。

23. 自立することが一番。親亡き後、どうするか。町内だと仕事や生活の場がどうしても少ない。

24. 障がいのある方が普通に暮らせる社会をどれだけ進められるか。

25. 地域で支える体制づくり。それでも届かないところがある。

26. 障がいのある方のために税金を使うことへの批判的な考えの人もある。難しさある。
27. 雇用の場ができてはなかなか続かない。
28. ひとことで「障がい」と言ってもひとくくりにできるものではない。
29. 1時間後には自分が当事者になっているかもしれないという気持ちで。
30. ネット社会の光と闇。法で規制しても結局は広まる。ネットの閲覧履歴から人工知能がおすすめを表示してくる。当たり前になりつつあるが。規制も誰がどんな基準で決めるのか、という難しさもある。

■その他

1. アンケートの性別欄は必要なのか。多様性、と役場は言うが、変わろうとしていないのは役場だ。
2. アンケート実施後の統計はできているのか。

3. 「みんなの人権・小地域懇談会」アンケートで書かれた意見

■懇談会のテーマ設定、運営方法等について

1. 多様なテーマで学習をすることは良い
2. これまで部落差別の懇談が多かったですが、今回は特に分りやすく耳にはいりました。
3. 研修と言う中で、内容について分った、分らなかったと言うアンケートは理解しづらいです。研修として理解を望むのであれば内容を考えてください。
4. 世界的な話で難しい。小地域で考えるには、課題が大きすぎる。他人優しくをモットーにすればいい世の中になりそう。
5. いろいろな関係するニュースがあり身近に感じなければいけないテーマでよかったですが、難しいテーマでした。
6. 時間が短いのでは？
7. マイクがあり、声が聞きやすくて良かった。グループでの意見交換がなかったのは残念です。
8. 論点が多過ぎて、何を話し合っているか判らない。
9. テーマが大きすぎて短時間でまとめられない。もう少し具体的内容が良いのでは？
10. たんたんといくような説明でメリハリがなく、時間も短く内容が入ってきませんでした。テーマもあまり耳にしたことのない言葉でピンときませんでした。懇談会の意味がないのでは？身近な問題に時間を割いた方がよかったのでは？
11. 今まで考えてもみななかったことばかりで難しいと思って聞きました。

12. 今まで何回か参加しました。今回のテーマは少し分かりにくく、聞くだけで長すぎて退屈でした。短時間での説明にしてほしい。もう少し地域に密着関係する内容にしてほしい。会場も寒かった。
13. もう少し身近な問題が2, 3あっても良かったのでは？皆さんが考え、分かりやすい話題も次回をお願いします。
14. 意見も参加者より職員の方が多く、地域の皆さんにも一言ずつでもよいので発言の機会があれば良かったと思う

■小地域懇談会の評価

1. 意見が出て良かった。
2. 人が少ないのが気になりました。
3. コロナ禍が収まってからゆつくり会議はしよう。
4. 普段集まって話を聞いたりする機会が少ないので、たまに人の意見も(考えの違う人と話をする)ことは良かった
5. この会により、考える時間が出来たことは良かったと思う。
6. このような機会をできるだけ多くに人にできるだけたくさん設けてほしい。

■説明を聴いて気づきがあったという意見

1. 昔のことではなくて、いつそんな世の中になるのかわからない。考えれば考えるほど恐ろしくなる。誰の心の中にも芽があると思う。感性を養うことが本当に大事だと思います。
2. 仕事が出来ると出来ない人が居れば出来る人を望むだろうと思います。が、これから先の考え方では、出来ないから劣っているとするのは、側面だけを見ている歪んだ考えだと思います。日常にたくさんある「分ける」心。分けることは必要だと思いますが、優劣をつけるようなことではないと思う点は、人の心の表裏に見え隠れているもの、現実だと思います。
3. 勉強になりました。
4. 「優生思想」「選民思想」は本当に私自身の心の中にあると確信しました。はっきりした差別として表れない分しっかりしないと流されてしまう。怖さも感じました。ひとつひとつ考えることをもう一度、大切にしたいと思いました。
5. キーワード「共同体感覚」についてもっと知りたいと思った。
6. なるほどなあと思った。自分や自分の周りにも関係が深いことだと思う。世の中の流れを人権視点で見つめていくことが、「幸せな時代」を築いていくことになると思う。
7. 大きなテーマのようで、しかし身近なテーマだと感じながら拝聴しました。「優生」「優劣」違いは理解しながら人を選別しないようにしたいと思いました。
8. なんとなくモヤモヤした知識を弓場さんに言葉で整理してもらってすっきりして良か

ったです。「世界は言葉で出来ている」イエスの言葉だったかな？

9. 人権について深く考えたことはありませんでしたが、世界や日本の歴史の中では古くからあり、今も根強くあると感じました。これを機に人権について考え、注視していき自分の行動や言動、考え方について見つめ直していこうと思いました。

10. 多様性と共助の必要性を再び考える機会となりました。

11. いろいろ考えるきっかけになりました。ありがとうございました。

12. 非常に良い講義でした。

13. この演題は人権を考える中でも悩ましい問題だと思います。生活の中でもどこかでこの問題にぶち当たっています。今日話を聞いて頭の整理をしながら過ごしていきたいと思いました。

14. 「優生思想・選民思想を考える」と案内をもらった時はなんだ？聞きなれないお話かと思ったが、説明を聞いてよくわかりました。宗教・哲学的で、みなさんの意見聞けて良かったです。弓場館長さんありがとうございました。年々参加者が少なくなってきました。何か方法があれば・・・

15. 関係ないですが、日本国民に寛容な方だと思いますが、全体主義などが、まだ根強くあるのかなと思う。

16. 自分の考えを見直します。

17. 今日は難しいようで大切な話をありがとうございました。人間の本心が喜ぶ生活ができればいいなと思います。いろいろな場面に遭遇しますが、一番よく分かるのではないかと思います。大切な時間いろいろ勉強になりありがとうございました。

18. いつも勉強させていただいたと思っております。

19. 身近なところ、日々の生活の中で人権について感じる事ができた。

20. 考えることの大切さが分りました。

21. 深い内容でとても勉強になりました。またじっくりと人権について考えるきっかけになりました。

22. 新たな発見がありました。

23. 自然に生き、サブレットだけになったら争いが絶えない。

24. 今回も勉強になりました。

25. 多様な社会が進むほど、これまでに築かれてきたもの、いわゆる平等化は相当困難であるが、向かいあって乗り越えなければならないことだと思う。

26. 自分の思うこと、これまでの歴史を考えたいと思う会でした。

27. 難しいテーマですが、孫たちの時代に残したくないと思いました。何も知識がないと伝えることができないので正しいこと勉強させて頂くことは本当に大切だと思いました。この会に参加させていただいて教えていただくこと沢山あり良かったです。ありがとうございました。

28. 優生思想、選民思想。こんな事例、あんな事例、身近にたくさんあると思う。

29. お話を聴いて考えさせられることに気づきました。
30. 普段の生活にあることだけど、いろんなことにモノサシ、線引きは多々あるように思う。
31. 難解なテーマでありましたが、弓場氏の解説で噛み砕いた形で提示していただいたので大変おもしろく拝聴で出来ました。
32. SDGS でも人権平等は取り組みをするようになっているので、改めて関心をもって聞いた。
33. とても考えさせられる内容でした。ただ優生思想・選民思想をやめようと突き詰めていくと新たな差別を生む気がします。良い悪いではなく、多様性を認めてバランスを取ることが大事なのではないのでしょうか。
34. 個人の価値観から「優生」「劣性」が生まれている。広く物事を受け入れるような考え方ができるようになれば極端な考え方や方等も少なくなるのではないかと思います。(それだけではないでしょうが。)
35. 大変理解しやすい内容でした。今後、理解を深めていきたいと思った。
36. 大変難しいテーマだと思いました。ただ大切なことだとも感じます。私の中にも必ずある思想だと思います。オリンピックの件、ユダヤ人の虐殺などには敏感に反応できる反面、眞子さんの結婚については、半分半分の自分がいます。自分の中の尺度によって違ってくると実感として感じているところです。だから今の自分の尺度と違う面の事を少し学んでみよう、広く考えてみようとも思いました。
37. 多分、色々な話を見たり聞いたりし続けないと優生思想を持ってしまうなと思います。正しい方向に進むためにも様々な問題が起こる度に考えていきたいと思いました。
38. 分かりやすい説明で良かったです。ありがとうございました。選民思想もよくわかりました。
39. 大変興味深く聞かせていただきました。最近の言葉、話題を織り交ぜて分かりやすいと思います。一番興味深かったのは、出生前医療により、生まれてくる命の選別をするようになるという所で、建前でいうと生まれてくる命は全て同じ、選別は必要ない。だけどいざその立場になるとどのようになるか分からない現実です。お話の中にも出てきましたが、多様性があるので、一概には言えないと思います。
40. 地域社会という共同体の中での自己のありようを、自分らしく発表できづらいことが多々あって、流される自分にハラハラしている。判断基準を明確にしたい思いを強くした研修でした。ありがとうございました。
41. 難しいですね。普通に生まれてきて、普通に生きてきてニュースなどでは耳に入ってきます。いろんな考え方があると思い、考えさせられました。
42. 多分一生理解し合えない人もいるものの、傷つけたりはできないとは思っています。誰の心の中にある妬み、優位に立ちたい気持ちが差別の根本にあるのでしょうか。こういった機会に少し思いとどまれるので良いと思います。

43. 思想、考え方は人それぞれですが、その考えから思いが偏ったものが多くなっているように感じる。自分の意見をもって過ごすことが必要。
44. 「みんな違ってみんないい」「世界は一つだけの花」など、個を大切にすることも広く知られていることも忘れてはいけないと思います。自分を堅持するために他者をいじめる、差別することも多くあると思いますが、認めあう尊重し合うことを忘れず過ごしたいと思います。
45. タイトルを見るとすごく難しいと感じていたが、日々生活してしているなかで、周りのあれこれの問題がたくさん関連している。自分の心の中には、優生的な思考があったのだと感じた。出生前診察など、今後考えて判断していくことが重要。
46. 初めてこの思想をテーマに話を聞きました。改めて勉強になりました。もう少し住民の方に参加してほしい。
47. 若月さんの意見が前回も大変ためになります。ゆっくり話したいです。
48. 個々の考え方は自由であることは大事ですが、個人で完結することであらぬ方向に行くのでは？人間関係の希薄さ、コミュニケーションの不足が関わっていると思います。命の尊さをもう一度考えてみた。
49. 改めて感じました。私も考えてみたいと思います。
50. 難しいテーマでしたが、大切な研修だと思います。今日の日本海新聞にちょうどホームレス襲撃の話が出ていました。NPO の活動で子どもがホームレスの支援をしていて夜回りをする活動をするというものです。心を育てる。しかしそのいい経験をしててもその中から襲撃するものもでてきたと…。自尊感情の欠如からではないかと。世の中いづもいろいろな方面で学ぶことが大切ですね。
51. 分かりやすい話し方で大変聞きやすかった(心に入った)「多様を受け入れ、優劣を付けない」と言われたことが心に残りました。家族に伝えたいと思います。出生前診断が悪いわけではなく有効に使う一つ的手段としてとらえています。しかし、皆同一の考えではないことが差別の原因であることも認識しています。難しいですねー！
52. 本日の懇談会に出席して少しでもみんなの人権について考えるきっかけになればと思いました。
53. 分かりやすい話し方でした。優生思想、選民思想は初めてかな。
54. 色々なことを考えさせられました。
55. 世間の風潮に流される空気が多く見受けられるのを怖いと思っています。「周りの人がほとんど賛成するときに、私は反対ですという勇気もつことが大切」という内容を読んだことがあります。現在の社会でとても大切な考え方だと思っています。
56. 個人の「ものさし」をどうするかが一番の問題。
57. 大変参考になりました。
58. 今回は特に有意義な会だと思います。やはり歴史から学ぶ、反省することは大事だと思っています。一人の経験では限界がありますが、歴史には様々な教訓が含まれ

ているからです。

59. このままで進めば・・・どのような世の中になるのだろうかぁ～と思うことがあります。自分だけ良ければという動きが恐ろしいですね。これからも話し合う場は続けてほしいですね。

60. 優生思想について→よくわかりました。

61. 「優生思想」「選民思想を考える」聞いただけではピンとすぐ理解できなかった。字を見たら、すぐピンと理解できること。今日の説明でより一層理解できました。

62. 優生思想、選民思想について改めて学ぶことができました。

63. 頭ではわかっているつもり、人間はみな平等。ここが個性であり特性。身障者の方に「思いやり」を持つことは、求められている事ではなくて押し付けであり、上から目線の行為だと言われるとまた悩んでしまう。悪いことではない気もしてしまう。近年パワハラなどハラスメントの話を聞くけど、優生思想の説明を聞くと、ずっと昔からパワハラはあったんだと再確認した。優生側の人たちはそれで心が満たされていたんだろうか？悲しい歴史だと思う。

64. 若月さんがまとめでおっしゃった「心のバランス」を日常においても考えながら生活して行きたいものです。本日はご苦労様でございました。

65. 話を聞いてですが、相手に対して優生の区別をつけていたことを思い出しました。誰にでもあることで難しいと思います

66. 逆の立場、相手の身になって考えることが大切と思いました。

67. 結論としては自分自身がどう考えて行動するか？が一番大切で、それによって周りへの影響も考える。自分勝手ではいけないと感じた。

68. 自分の身近なところでも起こりうることだと思った。身に振りかかるまで関心を持たないではいけないと気づかせてもらいました。聞くだけでもいいので、多くの人に参加してもらいたい。

69. 分からなかった事象等が認識できて良かった。優生、劣性の社会を改めて確認できた。今後の自分の生き方の中で、再度深めた生き方、気づきをしたい。とにかく誰もが「気づく」「考える」がとても大事だと思った。

70. テーマが基本的に心の中にある価値観の判断によるところが大きいと思いました。これからも自分自身を見つめ直し頑張ろうと思います。

71. 子どものモノサシを作るのは誰か、大人の責任を感じます。

72. 良いタイミングで良いテーマでした。昨今のコロナ禍で人間の醜い面が出てきている。日本人の醜い面が出てきて、「同調」意識がその例です。

73. 時代の流れで新しい問題が生じ、人と人でなくインターネットでフォロワーを増やすような、目に見えない差別が恐ろしいですネ。

74. とても良いお話だと感じました。

75. 人間の差別思想について充分わかりました。

76. 人は自分以外に原因を求めてしまう、という事もずっと繰り返しており、学習能力があるはずなのに、なぜ上手くいかないのか、楽な方に流されてしまうのかな、と思うと悲しい物がありますね。
77. 今回のテーマはとても難しい感じで話を聞きました。「みんな違って、みんな良い」という詩もあります。みんなの個性が認められ、誰かのモノサシで計られない社会が築いていけたら良いと思います。
78. すべての差別の根底に選民思想や優生思想があるのだと思います。分かりやすい説明で良く理解できました。
79. 難しそうなテーマでありましたが、詳しく説明していただき理解しました。これから少しはこの問題について考えていきたいと思っております。
80. 普段は何気なくテレビ等で観ているが、再確認出来て良かった。
81. 話を聴いて、昔、相手に対して優劣の区別をつけていたことを思い出しました。誰にでも優劣なく接したいと思います。
82. 優生思想・選民思想についてあらためて学ぶことができた。学校でテストの点が高い人が優れているのか？優れた人を増やすのが学校の役割なのか…。優生思想とは違うかもしれないが、いろんなところにそれにつながるような考え方が潜んでいる気がする。
83. 非常に難しい。思想に偏るのかどうかは個人の考えである。

■他の人権課題に関する意見

1. 相手のことを思い考えることで差別がなくなり、人権を守ることに繋がっていくと思う。
2. 今はネット社会、時代の流れについていくことが大変です。関心があり、見たり読んだりしています。活字にしたときは、責任をもたないといけません。
3. 常に少人数の意見に頼ることなく。自ら広い視野に学び成長することが一番大切です
4. SNS の制限に取り組む必要があるのでは？
5. 小学生の頃、部落の女性と遊んでいたら何であの人たちと…と言われました。あれから70年近くたってもまだ部落問題が続いているのは悲しいです。
6. 障がいを持った人と関わる難しさ、自分が難しくしているのだと思った。自分が大変だと言われたらみんなより劣っていると言われているようで辛いですね。今後、意識せずに関わりたいです。
7. 時々差別的な言葉を口にして「ハッ」と思う時がある。知らないうちに人を傷つけてしまうことを言ってしまうかも、と考えさせられました。
8. 時代の流れ、社会の流れに合った法律制定など必要では。例えば戸籍がない子どもがいる。

9. 自分自身の生き方を考えていきたいと思います。親切にすること、人のことを思い合うこと、他人の立場に立って話を聞くことの大切さ。自分が変われば人も変わる。

■その他

1. 昨年よりコロナ問題で研修会等出席出来ていません。先日ふれあい会館に行く予定でしたが、参加できませんでした。自分の母親の面会にも行けないところです。
2. 今回は内容が少し理解できないまま話が進行して発表ができなかった。
3. 基本的に人間個々の思想は分からない。
4. LGBTQとかジェンダーとかアルファベットやカタカナ語が多いので日本語に訳してもらいたいと思います。
5. 人権とは大変難しいと思います。
6. (時間の都合で割愛された)キーワード「共同体感覚」について、もっと知りたいと思った。
7. 学校教育に問題あり。
8. 自分の今を受け入れる。今の状況を一日一日大事にする。みんながそう思えることができれば人にあたることもなく、充実した日々を送れるのではないのでしょうか。あと日本は人権的には素晴らしい国だと思います。



4. 令和3年度 みんなの人権・小地域懇談会のまとめ

1. はじめに

今回は『「優生思想・選民思想」を考える～選別される生命、その「区別」と「差別」』という、いかにも難しそうなテーマを掲げました。ご意見や感想の中にも、「難しそうなタイトルだなー、と思った」という声が多くありました。内容は同じでも、タイトルをもう少し工夫して取りつきやすい、馴染みやすいものにすべきだった、と反省しています。

「優生思想・選民思想」の基本的な考え方は、人間の個性や属性（性別・人種・肌の色、国籍・宗教・民族・学歴・収入等々）に優劣をつけて、優れた者やその遺伝子を残し、劣った者の血筋を排除する。それが人間社会を将来にわたってより良いものにするために必要な手段である、というものです。近代でも、この思想に基づいて社会、政治を動かし大きな惨禍をもたらした出来事がいくつもあります。最も知られているのはヒトラーのナチスドイツです。戦争の記憶の一環のようでもあります。優生思想に基づいてナチスの行ったことは戦争そのものとは直接には関係ありません。第一次世界大戦の敗戦で社会経済が混乱し、大衆の不満が鬱積している中で、国民の大多数がヒトラーの宣伝する優生思想・選民思想を支持し、権力を得ました。その後、合法的に独裁体制を敷いていきました。ドイツ民族が唯一最高の民族であり、他の民族や劣った属性の人間は排除すべきという主張です。障がい者を集め安楽死させることから始まり、ユダヤ人等の大量大虐殺（戦死ではない）まで、大衆がヒトラーという独裁者の描いた理想に追随したことから始まっています。生活苦への不満の矛先をヒトラーが示した仮想の敵に向け、怒りを暴発させたとも言えます。

この度、「優生思想・選民思想」を持ち出したのは、世界でも日本でも、こうした物の見方、価値観が再び台頭してきたように感じるからです。第二次世界大戦の終戦から70年以上が過ぎました。「戦後」にあった記憶や反省がどんどん薄らいでいます。もう一度、記憶をたどり、現在の日本、世界の情勢の中に、この人権を損なう危うさを孕んだ思想が今も存在することを再認識していただくことが目的でした。

2. 小地域懇談会のテーマ設定、運営などについて

今回のテーマについては、話を聴いていただければ身近な課題として理解いただけるものと捉えていますが、テーマの文言が難解そうな印象を与えてしまい、言葉の選択に配慮が足りませんでした。内容については、多様なテーマを取

り上げることは良いとの評価もありました。論点が多すぎるとの指摘が数件ありました。少し話を膨らませ過ぎてしまったかもしれません。

運営方法について、一部ではありますが、もう少し時間をかけて参加者相互の話し合いがあってもよいのでは、との声がありました。コロナ禍があり、また一般的に長時間の会合を敬遠される方が多いと認識しており、近年1時間30分までで終えています。現場に立ってみても1時間30分程度が適切ではないかと考えています。

懇談会の開催そのものには、意義、必要性があるという意見が幾つかあり、励みにさせていただいています。

3. ご意見・ご感想について

会場での感想やご意見、アンケートには、あまり聴くことのないテーマ・話題で新鮮だった、良かった、考える機会になった、といった声をたくさん頂戴しました。「優生思想」「選民思想」にまつわる人権侵害の事例を多く揚げたことで、事例により参加者それぞれにとっての身近な問題、自分事として受け止めていただくことができたかもしれません。それぞれの方が、自身が関心を持った事例について、日頃考えておられることや、今回の気づきを書いてくださって、人権センターとしても学ぶことが多くあります。毎年ですが、感想を聴き、読むにつけ、本町にお住いの皆さまの人権意識、感性、知識の高さに敬意を感じます。

4. おわりに

日本で「一億総中流」と言われた戦後の高度経済成長期が、バブル経済の崩壊を頂点に終焉を迎え、低成長期に入りました。企業は生き残りのための合理化、効率化が叫ばれ、リストラや生産工場の低賃金国への移転などを進め、派遣社員を含む非正規雇用が大幅に増加しました。将来の社会・経済への長期的展望を欠いたまま競争が煽られた結果、収入や地位、暮らしぶりで「勝ち組」と「負け組」、「上級国民」と「下級国民」に区分されてしまう時代が来しました。

激動の時代から一応の安定した社会になり、明治時代から脈々と続く身分の世襲構造が、新自由主義の中で顕在化しています。「親ガチャ」というインターネット上の俗語が流行しました。子は親を選べず、どのような親の元に生まれるかで社会のどの階層で生きていくかが決まっている、という諦め、閉塞感が若者を覆っています。これも選民的、階級的価値観が社会に蔓延してることを感じさせます。

個々の自己認識の中で二極化した区分により、お互いが憎みあい責め合って

社会の分断が進んだように思えます。富裕層や社会的上級層への憧れや妬みが膨らみ、勝ち組による不正が暴かれた時などには怒りになり、激しい糾弾になります。反対に社会・経済上の成功者（一時的かもしれませんが）、富裕層からは、貧富や勝ち負けは、出自や努力や才能といった個人の資質によるもので、自己責任だという声が当たり前のように出るようになりました。

メンタリスト（心理学を流用して手品のようなことをする人）という肩書で、ネット番組を配信し、多くの自己啓発本を出版して若者から大きな支持を集めていた方が、自身の番組で「ホームレスは社会の足を引っ張っているのだから処分された方がいい」「生活保護に自分の税金を使われたくない」「そうした人たちを救うなら猫を助けてほしい」と発言され、さすがに物議を醸しました。これは一例ですが、類似した情報発信を問題視し危惧する報道が増えているように思えます。自分にとって優生なものは守り、劣性なものは排除する。優生思想そのものに見えます。

世界中で、優生思想・選民思想を含んだ民族主義、純血主義が頭をもたげ拡大してきています。東欧での大規模な侵略戦争は、世界の秩序を一瞬で崩壊させ、先人が国際的に共有しようとしてきた人道主義は危機に瀕しています。国際連合が世界的危機に対して如何に無力かも証明されてしまいました。どの国も自分の国を守るため、自国最優先が如実になり、国家体制固めのために民族主義、選民思想が流行し、民族浄化と称して政府が国内の少数民族を虐待、虐殺して排除する行為も伝えられています。

選民思想や優生思想を背景に戦争が起こり、戦争の中で暴力による人間と生命の選別が行われる。…何とかして、そうした時代への逆行を食い止める必要を強く感じます。

言うまでもなく、戦争は最大の人権侵害であり、生命はもとよりすべての人権を踏みにじります。戦争を考える時にも的確な想像力が必要だと思います。風が吹いて桜が散るのを戦死にたとえるのが我が国の一部の人々の美学ですが、そんなに美しいはありません。戦死の前に存在する虐待、拷問という戦場の現実によって人としての権利を奪われ、誇りや尊厳をもてあそばれる惨めさは、誰も経験したくはないものでしょう。

（了）